

## Donor Action Program Grief Care Workshop

### アンケート結果

2003年11月8日(土)  
北海道 札幌市医師会館にて実施

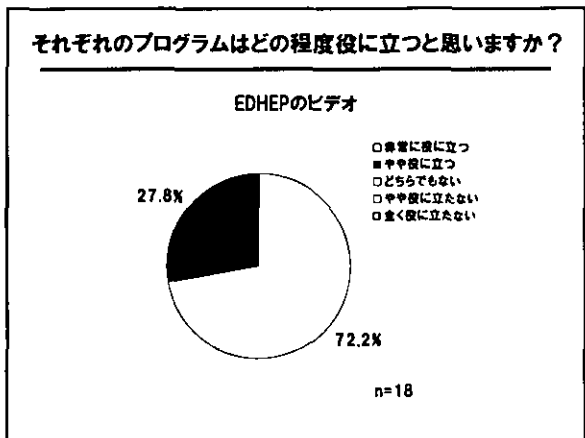
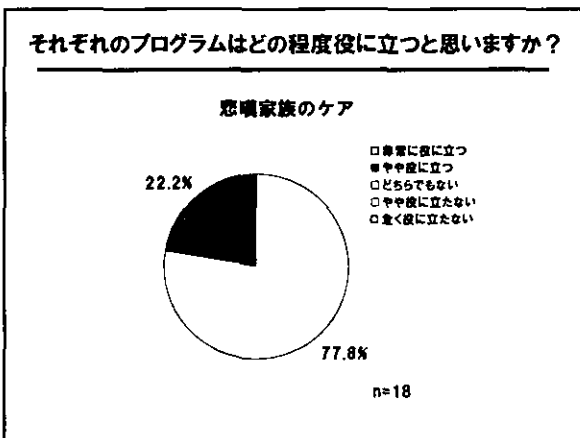
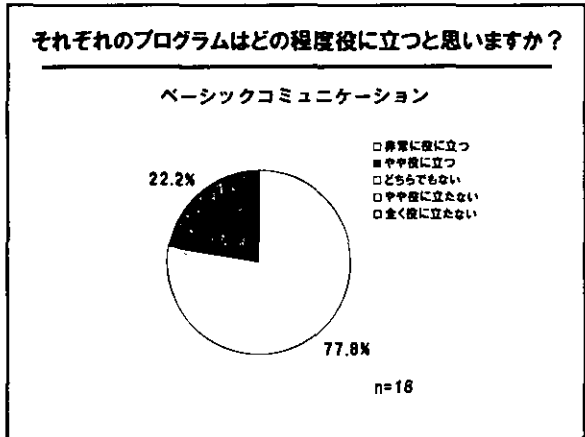
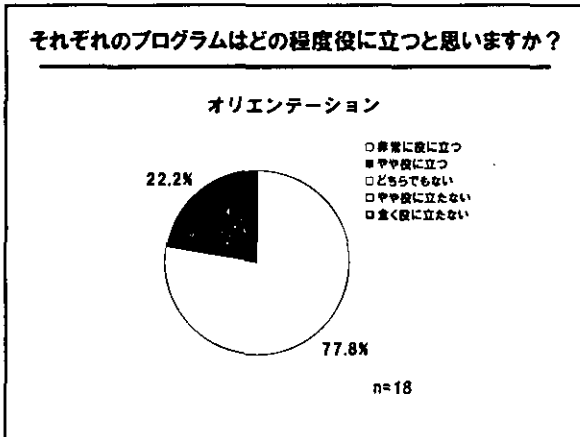
### Grief Care Workshop及びアンケートの概要

- 実施日: 2003年11月8日(土)
- 実施場所: 北海道 札幌市医師会館
- 講師: 堤邦彦先生(北里大学精神科)
- Grief Care Workshop Agenda⇒

Grief Care Workshop/ Agenda

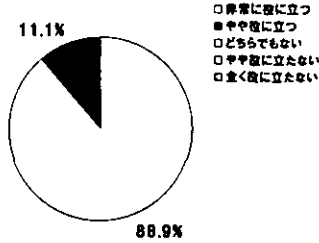
- オリエンテーション:  
ドナー家族が臓器提供によってどう暮されたのか?
- ベーシックコミュニケーション:  
急性期の信頼関係を築く
- 悲嘆家族のケア  
(対話形式、ビデオ使用)
- ロールプレイ: 臓死の説明をする・臓器提供の話を切り出す
- デブリーフィング: 医療従事者へのストレスケア
- 家族に対する遺贈と対応

- アンケート回収結果  
回収数: 18  
回答者:  
性別: 男性6名, 女性12名  
平均年齢: 42.3 (27~78) 歳  
平均経験年数: 16.5 (0.5~30) 年  
職種: 看護師 9名  
コーディネーター 2名  
医師 2名  
その他・無回答 2名



それぞれのプログラムはどの程度役に立つと思いますか？

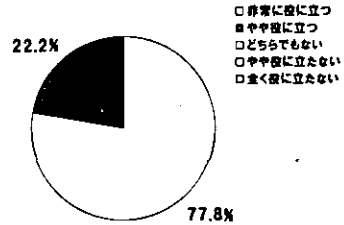
ロールプレイ



n=18

それぞれのプログラムはどの程度役に立つと思いますか？

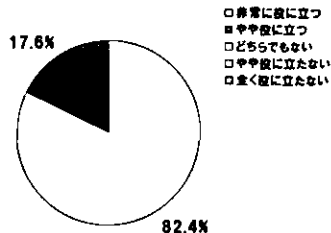
デブリーフィング



n=18

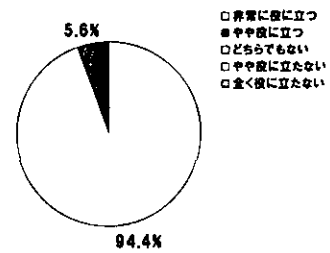
それぞれのプログラムはどの程度役に立つと思いますか？

家族についての理解と対応



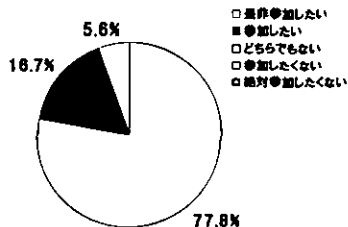
n=17

このようなワークショップ形式の学習方法は実際の現場で働く上で役に立つと思いますか？



n=18

このようなワークショップにまた参加したいと思いますか？



n=18

ご意見・ご感想をご自由にお聞かせ下さい

- ・ 数日の講習内容で一番興味深く、学ばせて頂きました。
- ・ 本当に勉強になりました。家族の心情を理解するにはもっともっとコミュニケーション能力が必要だと思いました。
- ・ 本当に教科書では得られない、お金でも買えない位の勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 初めての経験でとても良かったです。
- ・ 学生への視察等にも活用していきたいと思えます。
- ・ スタッフの方々ご苦労様です。
- ・ ロールプレイの時の音ももう少し聞き取れるようお願いします。

## まとめ

- Grief care Workshopを開催し、そのアンケートを実施したところ、18名からの回答を得た。
- 回答者の内訳は、看護師:9名、コーディネーター:2名、医師:2名、その他・無回答:2名であり、平均経過年数は16.5年であった。
- 回答者全員が、各プログラムを「役に立つ」と回答した。
- 特に、「ロールプレイ」に関しては、88.9%が「非常に役に立つ」と回答した。
- 回答者全員が、ワークショップ形式の学習方法が実際の現場で働く上で「役に立つ」と回答した。
- 同様のワークショップに94.4%が再度「参加したい」と回答した。

**Donor Action Program  
Grief Care Workshop**

**アンケート結果**

2004年3月14日(日)  
静岡 静岡駅ビルバルシェにて実施

**Grief Care Workshop及びアンケートの概要**

- 実施日: 2004年3月14日(日)
- 実施場所: 静岡 静岡駅ビルバルシェ
- 講師: 堤形彦先生(北里大学精神科)
- Grief Care Workshop Agenda⇒

**Grief Care Workshop/ Agenda**

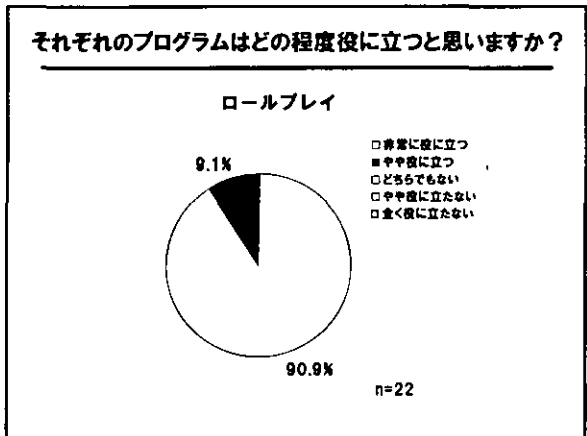
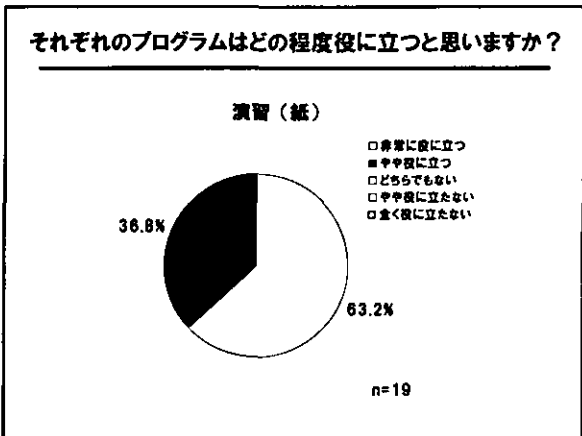
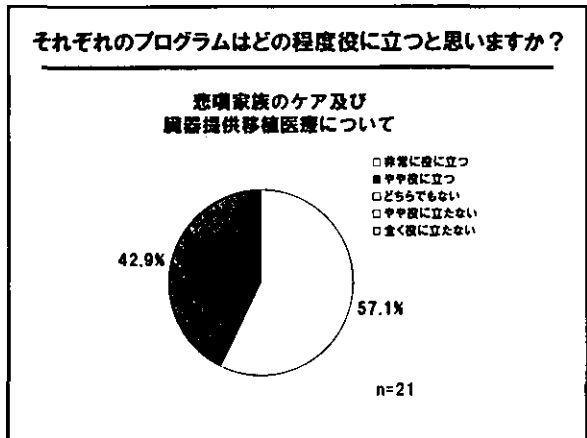
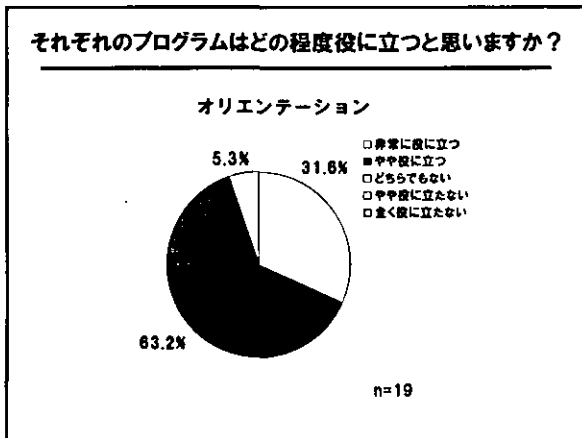
- オリエンテーション
- 悲嘆家族のケア及び臓器提供移植医療について
- 演習
- ロールプレイ
- 家族に対する理解と対応
- まとめ及びデブリーフィング

- アンケート回収結果

回収数: 22  
回答者:

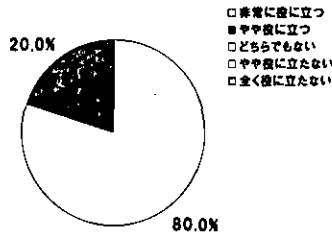
性別: 男性6名、女性16名  
平均年齢: 44.5 (32~57) 歳  
平均経験年数: 15.5 (2~34) 年  
職種: 看護師 11名  
          コーディネーター 5名  
          医師 2名  
          その他・無回答 4名

立場: トレーナー 10名  
          ビギナー 8名  
          無回答 4名



それぞれのプログラムはどの程度役に立つと思いますか？

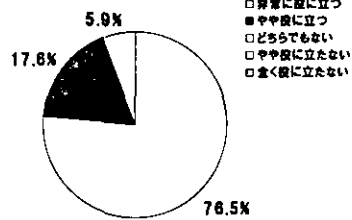
家族についての理解と対応



n=20

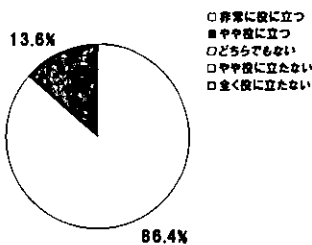
それぞれのプログラムはどの程度役に立つと思いますか？

まとめ及びデブリーフィング



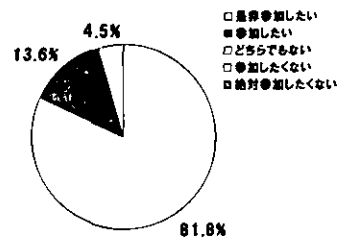
n=17

このようなワークショップ形式の学習方法は実際の現場で働く上で役に立つと思いますか？



n=22

このようなワークショップにまた参加したいと思いますか？



n=22

ご意見・ご感想をご自由にお聞かせ下さい

- 自分の席に置った研修会などの企画をしたいと思いき、(是非場先生来て下さい)名刺の紙は目からウロコでした。
- 現場ではミスすることが許されないで、このような学習の場や症例検討の場は真摯役に立ちます。イメージトレーニングは常に大切だと思えます。
- やっぱりCoの研修はロールプレイが必要と考えます。
- 演習は自分で考えることの大切さ大事ですね。色々な発想も出来ることは良い事です。日常の現場で振り回る習慣をつけたいと思えます。
- 自己啓蒙の場になりました。
- 場先生の話は教員定着までの時も含め3-4回ですが、毎回再認識させられると同時に改めて我に言い聞かせています。ロールプレイはすごく勉強になったのですが、参加した院内Co集のメンタルは大丈夫かとちょっと心配になりました。ガス抜き出来たでしょうか？でも見ているサイドとしてはうまくゆかなかつたゆえに益々勉強になりました。「紙」の演習は現場でやろうと思っています。
- 突然参加させていただきまして、改めてお礼申し上げます。大変参考になりました。今後ともご指導よろしくお願い致します。
- ロールプレイではあるけれど、色々な切り出しが出来るようになるためには、何回でもこういうワークショップは大切だと思える。

まとめ

- Grief care Workshopを開催し、そのアンケートを実施したところ、22名からの回答を得た。
- 回答者の内訳は、看護師:11名、コーディネーター:5名、医師:2名、その他・無回答:4名であり、平均経験年数は15.5年であった。
- 回答者全員が、「悲嘆家族のケア及び機器提供移植医療について」、「演習」、「ロールプレイ」、「家族についての理解と対応」を「役に立つ」と回答した。
- 特に、「ロールプレイ」に関しては、90.9%が「非常に役に立つ」と回答した。
- 回答者全員が、ワークショップ形式の学習方法が実際の現場で働く上で「役に立つ」と回答した。
- 同様のワークショップに95.4%が再度「参加したい」と回答した。

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大島伸一	臓器移植におけるドナー確保の対策	Medical Science Digest	29 (9)	362-365	2003
大島伸一	臓器提供を推進するモデル事業－病院開発モデルとドナー・アクション・プログラム－	腎と透析	55 (4)	637-640	2003
高橋公太	腎移植は日本でどこまで普及するか－腎移植を普及させるためには－	日本透析医会雑誌	18 (1)	23-29	2003
大島伸一, 鈴木和雄, 高橋公太, 野本亀久雄, 長谷川友紀	ドイツのドネーションに学べ	Trends & Topics in Transplantation	14 (1)	3-8	2003
大島伸一, 佐古和廣, 嶋村剛, 中川原譲二, 野本亀久雄, 長谷川友紀	北海道のドナーアクションプログラムの取り組み	Trends & Topics in Transplantation	14 (2)	3-9	2003
大島伸一, 秋山政人, 田中秀治, 堤邦彦, 野本亀久雄, 長谷川友紀	臓器移植における家族ケアとコミュニケーション	Trends & Topics in Transplantation	15 (1)	3-8	2004

20030404

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、  
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。